

(仮称)バロー北名古屋店

大規模小売店舗立地法指針項目チェックリスト

1 概要

北名古屋市鹿田のパチンコ店跡地に食料品スーパーを新設する。(法第5条第1項)

2 届出の内容

届出年月日	平成20年8月19日		
店舗	店舗名称	(仮称)バロー北名古屋店	
	店舗所在地	北名古屋市鹿田西赤土76番地の1ほか35筆	
設置者	名称	株式会社バロー	
	代表者	代表取締役 田代 正美	
	住所	岐阜県恵那市大井町180番地の1	
	備考	なし	
小売業者	名称	株式会社バロー	
	代表者	代表取締役 田代 正美	
	住所	岐阜県恵那市大井町180番地の1	
	備考	なし	
店舗面積	1,333 m ²		
施設の配置	駐車場	位置	別紙図面のとおり
		台数	51 台
	駐輪場	位置	別紙図面のとおり
		台数	100 台
	荷捌施設	位置	別紙図面のとおり
		面積	107 m ²
	廃棄物 保管施設	位置	別紙図面のとおり
		容量	36.1 m ³
施設の運営	営業時間	開店	午前10時(年間60日午前9時30分)
		閉店	午後9時30分
	駐車場利用時間帯	午前9時30分(年間60日午前9時)から午後10時まで	
	駐車場出入口	数	4箇所
		位置	別紙図面のとおり
荷捌時間帯	午前6時から午後10時まで		
新設する日	平成21年4月20日		

3 参考事項

敷地面積	7,059 m ²		
建築面積	3,042 m ²		
延床面積	2,928 m ²		
業態	食料品専門店		
用途地域	第2種住居地域	—	—
備考			

(仮称)バロー北名古屋店

4 基本的配慮事項

配慮事項	記述事項
(1) まちづくり計画の検討	都市計画及び中心市街地活性化基本計画等について情報収集し、検討する
(2) 深夜営業の対応	深夜営業は行わない
(3) 住民説明会の開催	地域住民等の理解が十分得られるよう説明・周知
(4) テナントの履行確保	設置者と小売業者が同一のため不要
(5) 責任者の任命	店長を責任者として任命
(6) 予測乖離時の措置	再調査・再対策を検討の上、必要措置を実施
(7) 通年の臨時措置	繁忙時は交通整理員を配置
(8) 開店時の臨時措置	交通整理員を配置

5 施設の配置及び運営方法に関する事項

1 駐車需要の充足・周辺地域の利便確保のための配慮

(1) 交通に係る事項

ア 駐車場の必要台数の確保

(ア) 小売店舗の必要駐車台数

a 指針による算出

行政人口	店舗面積	日來客数 原単位 (人/千㎡)	ピーク率	駅からの距離 (商業系地域の 場合)	自動車分担率	平均乗車人員	平均駐車 時間係数	必要駐車台数
80,598人	1,333 ㎡	1,060	14.40%	-	80.00%	2.00 人	0.62	51 台

総駐車台数	-	従業員等駐車台数	-	業務用駐車台数	-	搬出入用駐車台数	-	併設施設駐車台数	=	来客用駐車台数	評価
54 台		3 台		0 台		0 台		0 台		51 台	○

【参考】別棟B棟の店舗面積(585㎡)を含めた必要駐車台数の検証

行政人口	店舗面積	日來客数 原単位 (人/千㎡)	ピーク率	駅からの距離 (商業系地域の 場合)	自動車分担率	平均乗車人員	平均駐車 時間係数	必要駐車台数
80,598人	1,918 ㎡	1,042	14.40%	-	80.00%	2.00 人	0.68	78 台

総駐車台数	-	従業員等駐車台数	-	業務用駐車台数	-	搬出入用駐車台数	-	併設施設駐車台数	=	来客用駐車台数	評価
81 台		3 台		0 台		0 台		0 台		78 台	○

⇒別棟B棟の店舗面積を含めた必要駐車台数を確保した。

b 指針によらない「特別な事情」による算出

特別な事情による算出を行う場合は、aの表をコピーし入力してください。

(イ) 小売店舗に併設施設を含めた必要駐車台数

a 指針の参考式による算出

併設施設 の面積	併設施設の割合 (併設施設面積/店舗面積)	必要駐車台数
0 ㎡	0.0%	51 台

総駐車台数	-	従業員等駐車台数	-	業務用駐車台数	-	搬出入用駐車台数	=	来客用駐車台数	評価
54 台		3 台		0 台		0 台		51 台	○

【参考】別棟B棟のサービス部分の面積(192㎡)を含めた必要駐車台数の検証

併設施設 の面積	併設施設の割合 (併設施設面積/店舗面積)	必要駐車台数
192 ㎡	10.0%	78 台

総駐車台数	-	従業員等駐車台数	-	業務用駐車台数	-	搬出入用駐車台数	=	来客用駐車台数	評価
81 台		3 台		0 台		0 台		78 台	○

⇒別棟B棟のサービス部分の面積を含めた必要駐車台数を確保した。

イ 駐車場の位置及び構造等

1平面自走オペレーター:無	2平面自走オペレーター:有	3機械式駐車場	共用駐車場数	ピーク1hの来台車数
4箇所	0箇所	0箇所	0箇所	81 台

(仮称)バロー北名古屋店

ウ 駐車場形式・出入口数・位置・駐車待スペース・分散確保・交通整理

①	種別	1	収容台数	12台	歩行者動線	分離	騒音配慮	段差を抑えた駐車場設計	排ガス配慮	アイドリングストップ表示板を設置	
	出入口数	道路種別	道路幅員	歩道	交差点距離	駐車待スペース	予測来台車数	道路形態	入出庫方法	整理員	評価
駐車場	東	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	南	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	北	1箇所	市町村道	6m	なし	20m	5m	8	双方向	右左折混合	あり
交通整理員等の配置		年間を当して混雑する時期のみ配備									

②	種別	1	収容台数	66台	歩行者動線	分離	騒音配慮	段差を抑えた駐車場設計	排ガス配慮	アイドリングストップ表示板を設置		
	出入口数	道路種別	道路幅員	歩道	交差点距離	駐車待スペース	予測来台車数	道路形態	入出庫方法	整理員	評価	
駐車場	東	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	西	1箇所	県道	19m	あり	6m	5m	90	双方向	左折のみ	あり	○
	南	2箇所	市町村道	6m	なし	5m	5m	17	双方向	右左折混合	あり	○
	北	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
交通整理員等の配置		年間を通じて混雑する時期のみ配備										

評価	駐車場法の基準	駐車場出入口の数・位置	駐車待スペース	駐車場の分散確保	出入口における交通整理
	○	○	○	○	○

エ 周辺交通状況の把握

交通量調査	来客車両等の方向別予測	店舗周辺状況調査	交通流動の予測
実施	実施	実施	実施(交通飽和度等の検討)

(ア) 交通飽和度の検討

交差点A	飽和度	休日			平日		
		現況	開店後	評価	現況	開店後	評価
		0.470	0.520	○	0.550	0.610	○
将来交通量/可能交通容量		0.750	0.860	○	0.800	0.920	○
ピーク時間帯		11時台			18時台		
交差点B	飽和度	休日			平日		
		現況	開店後	評価	現況	開店後	評価
		-	-	-	-	-	-
将来交通量/可能交通容量		0.020	0.340	○	0.030	0.560	○
ピーク時間帯		11時台			17時台		

※周辺道路の混雑を回避するための対策等

<p>周辺道路及び交差点に対する負担が小さくなるよう経路を設定。 交通対策として交差点Bに交通整理員を配置し県道名古屋外環状線への安全な流入を促すと共に、混雑が発生する場合には左折での出場を促す。交通整理員の配置計画は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンから2週間は毎日、交通整理員を交差点Bに配置する。 ・その後の2週間は土曜日・日曜日に交通整理員を交差点Bに配置する。 ・オープンから1ヶ月が経過した後の交通整理の配置計画については、1ヶ月間の状況を見て判断する。

オ 駐輪場等の確保等

駐輪場の位置及び箇所数	店舗北側に2箇所、店舗西側に1箇所、店舗東側に1箇所
駐輪場の収容台数	100台
標準収容台数	39台
収容台数根拠	指針の標準収容台数による

※別途、別棟B棟用駐輪場として90台を確保。(B棟を含めた店舗面積1,918㎡÷35=55<合計収容台数190)

位置評価	台数評価
○	○

カ 自動二輪車の駐車場の確保

自動二輪車駐車場の確保	なし	収容台数	—
位置及び箇所	自転車駐輪場と共用。		

位置評価	台数評価
○	○

(仮称)バロー北名古屋店

キ 荷捌施設の整備等

(ア) 荷捌施設の整備

停車位置	専用出入口・通路	面積	営業時間外の搬入	平均処理時間	同時処理可能台数	ピーク時車両数	処理能力
敷地内	隔離	107㎡	あり	20分	1台	3台	○

(イ) 計画的な搬入

搬入ピーク	台数	道路混雑ピーク	道路余裕時間帯	施設運営計画の有無	荷捌待スペース	評価
10:00~12:00	3台	11:00~12:00	22:00~23:00	単独テナント	なし	○

ク 経路の設定等

(ア) 車両関係

a 来客車関係

案内表示の設置	交通整理員の配置	情報提供	生活道路の回避	通学路の回避	療養施設等の回避	右折経路
あり	配置	チラシ配布	回避	回避	回避	あり

b 搬出入車両関係

通学路との交錯	登下校時間の運行	登下校時間の交通整理員
なし	—	—

※非配備の場合等の対応

c バス・タクシー等交通機関関係

駐車場の確保
バス・タクシー等の停留所なし

d 地方公共団体・公共交通事業者の事業関係

パークアンドライド事業等への協力
事業なし

評価

○

(イ) 歩行者通行関係

通り抜け可能通路の保持	通行妨害施設	閉店後の夜間照明の設置
必要なし	なし	必要なし

評価

○

(ウ) 廃棄物・リサイクル関係

廃棄物減量化計画	リサイクル活動推進計画
実施	実施

評価

○

(エ) 防災・防犯対策への協力

a 防災への協力

避難場所の提供	物資の緊急提供	その他
締結可能	締結可能	

b 防犯への協力

夜間照明の配置	警備員等の巡回	その他
配慮あり	あり	

評価

○

2 生活環境悪化防止関係

(1) 騒音発生に係る事項

ア 騒音問題対応策

(ア) 一般的対策

	住居(距離)	高層住居(距離)	騒音発生源	遮音壁(高さ)	緑地帯	その他の対策
東方向	10 m	なし	給排気口	2.2m	あり	-
西方向	22 m	なし	給排気口	なし	あり	-
南方向	15 m	なし	室外機	2.2m	あり	-
北方向	3 m	なし	廃棄物収集作業	3.0m	なし	-

遮音壁の影響 遮音壁の高さについては地元住民との調整を行う。

(イ) 営業活動の騒音対策

早朝・深夜荷捌きの有無	なし
荷捌施設建築計画面での配慮	荷さばき施設の十分なスペース確保
荷捌作業運営面での配慮	アイドリングストップ・作業者の騒音抑制意識向上の働きかけ
放送設備使用面での配慮	屋外放送なし

(仮称)バロー北名古屋店

(ウ)付帯設備及び付帯施設等における騒音対策

冷却塔、室外機等からの騒音配慮	既存住宅に影響が少ない場所に設置・遮音壁の設置
給排気口等からの騒音配慮	—
駐車場からの騒音配慮	周辺道路との段差をなくす
廃棄物収集作業等に伴う騒音配慮	早朝、深夜の作業回避
経年劣化等の事後対策	機器周辺の防音措置の強化、機器の配置の見直し・更新

(エ)併設施設における騒音対策

施設面の騒音配慮	既存住宅に影響が少ない場所に設置
運営面の騒音配慮	—

イ 騒音の予測評価

予測対象騒音	定常騒音	空調機室外機	22	冷却塔		給排気口	44	変電施設		浄化槽		ポンプ				
		冷凍機室外機	5	キュービクル	1											
	変動騒音	自動車走行	○	後進警報ブザー	○	台車走行	○	BGM		アナウンス						
		ゴミ収集作業	○	アイリング	○											
	衝撃騒音	荷降し音		台車走行												
建物の構造(高さ)		鉄骨造平屋(5.8m)														

(ア)等価騒音レベル予測

		予測点A(南)	予測点B(西)	予測点C(東)	予測点D(東)
用途地域		第2種住居地域	第2種住居地域	第1種中高層住居専用地域	第1種中高層住居専用地域
昼間基準値		55 dB	55 dB	55 dB	55 dB
夜間基準値		45 dB	45 dB	45 dB	45 dB
設置者	昼間等価騒音レベル	37.7 dB	44.2 dB	36.5 dB	39.4 dB
	評価	○	○	○	○
	夜間等価騒音レベル	33.0 dB	33.9 dB	29.9 dB	27.1 dB
	評価	○	○	○	○
県	昼間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当
	夜間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当
		予測点E(北)	予測点F(西)	予測点E'(北)	
用途地域		第2種住居地域	第2種住居地域	第2種住居地域	
昼間基準値		55 dB	55 dB	55 dB	
夜間基準値		45 dB	45 dB	45 dB	
設置者	昼間等価騒音レベル	58.1 dB	43.6 dB	37.5 dB	
	評価	△	○	○	
	夜間等価騒音レベル	31.7 dB	28.0 dB	31.7 dB	
	評価	○	○	○	
県	昼間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	
	夜間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	

※基準値を超えた場合の対応等

B荷さばき施設の北側敷地境界線上には周辺環境に配慮し高さ3mの遮音壁を設置するが、高さ4.5mにおいては遮音壁による回折効果が得られないため、予測点Eにおける等価騒音レベルが基準値を上回る。

これは主としてB荷さばき施設における廃棄物収集作業音の影響であるが、廃棄物収集作業は1日15分程度であること、また、北側集合住宅の建物位置(予測点E')における等価騒音レベルは37.5dB(GL4.5m)となることから、周辺環境への影響は小さいと考える。

(仮称)バロー北名古屋店

(イ)夜間における騒音ごとの予測

A 商工系地域で周囲50m以内に学校、保育所、病院、患者収容施設を有する診療所、図書館、特別養護老人ホームの有無				無
B 工業地域で住居系地域との境界線を50m以内に有するか否か				
上記A・Bの具体的内容				
-				
		予測点a(南)	予測点b(西)	予測点c(東)
用途地域		第2種住居地域	第2種住居地域	第2種住居地域
基準値を5dB減ずる要因		なし	なし	なし
基準値		40dB	40dB	40dB
設置者	定常騒音の騒音レベル	33dB	38.6dB	31.5dB
	評価	○	○	○
	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値	-	-	-
県	定常騒音の騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当
	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値検証	-	-	-

※基準値を超えた場合の対応等

-

(2) 廃棄物関係

ア 廃棄物等の保管について

悪臭問題関係配慮	室温を低音に保ち悪臭の発生を抑制、脱臭設備により排気口からの悪臭を防ぐ。
衛生問題関係配慮	特になし。

(ア)小売店舗の必要保管容量

a 指針に分類される廃棄物等

取扱品目	届出容量	保管日数	日排出量	見かけ比重	必要保管容量	見かけ比重の変更	評価
紙廃棄物用	21.10 m ³	1日	0.277 t	0.10 t/m ³	2.77 m ³	変更なし	○
金属製廃棄物用		1日	0.009 t	0.10 t/m ³	0.09 m ³	変更なし	
ガラス製廃棄物用		1日	0.008 t	0.10 t/m ³	0.08 m ³	変更なし	
プラスチック製廃棄物用		1日	0.027 t	0.01 t/m ³	2.67 m ³	変更なし	
生ごみ用		1日	0.225 t	0.55 t/m ³	0.41 m ³	変更なし	
その他可燃性廃棄物用	15.00 m ³	1日	0.072 t	0.38 t/m ³	0.19 m ³	変更なし	○
合計	36.10 m ³	-	-	-	6.21 m ³	-	○
保管日数の設定根拠	既存の実績に基づく						
見かけ比重変更の理由	変更なし						
指針と異なる算定式の使用	変更なし						

b その他の廃棄物等

該当なし。

(イ)小売店舗以外の施設の必要保管容量

該当なし。

廃棄物排出量を減少させる要因		廃棄物排出量を増加させる要因	
ダンボール不使用納品の実施	あり	空缶・空き瓶の回収箱設置	あり
生ゴミ堆肥化施設の使用	あり	食品トレイ・ペットボトルの回収箱設置	あり
廃棄物等圧縮機の使用	なし	食品加工場の設置	あり
脱水装置の使用	なし	物販店以外の施設との保管施設の共有	なし
その他	なし	その他	なし

位置・構造	種類・処理方法ごとの分別の実施	
	搬出作業の利便性の確保	特になし
	搬出作業の騒音・悪臭対策の確保	夜間及び早朝作業は控える
	生ゴミ保管施設の温度管理等の実施	あり
	生ゴミ保管施設の密閉性の確保	あり

(仮称)バロー北名古屋店

イ 廃棄物等の運搬や処理について

十分な搬送頻度の確保	特になし
繁忙期の特別な措置	搬出回数を増便
運搬(予定)業者(免許番号)	未定
運搬業者・処理業者に対する情報提供	特になし
敷地内処理の配慮	すべて敷地外処理
廃棄物運搬・処理実施要綱等の制定	なし

ウ その他廃棄物関連対応策について

食品加工場等からの悪臭防止対策	室内を低音に保ち悪臭の発生を抑制、脱臭設備により排気口からの悪臭を防ぐ。
併設施設からの悪臭防止対策	—

評価
○

(3) 街づくり等への配慮

街並みづくり等への配慮	特になし
市町村等の公的計画への協力	特になし
照明等の配慮	特になし
敷地内の緑地計画	駐車場に緑地(522.2㎡、緑化率7.4%)を配置する

評価
○

市町村の意見概要	対応
意見なし	—

住民等の意見の概要	対応
意見なし	—

県の意見案
意見なし